

Wish

世界の子どものために

vol. **66**

2022年1月号



アフリカトークと音楽のライブステージ（尼崎の森中央緑地）

CONTENTS

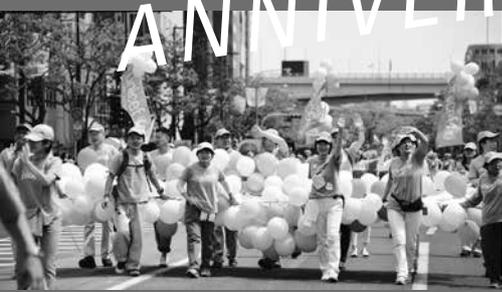
2-3 特集 兵庫県ユニセフ協会設立 20周年記念企画
高木慶子さんと一緒に振り返る 20年

4-5 EVENT REPORT 2021国際理解講座③④
すべてのいのちは たからもの / いま、生きていく力 いのちがまん中

6-7 活動ファイル
2021年8月～12月

8 お知らせ

20TH ANNIVERSARY



兵庫県ユニセフ協会設立から20年間のあゆみ

2001年	12月	日本ユニセフ協会兵庫県支部設立発起人会
2002年	3月	日本ユニセフ協会兵庫県支部設立総会
	12月	ハンド・イン・ハンド街頭募金3会場で呼びかけ
2003年		1周年記念「長島義明さん写真展」開催
	5月	中学生「トライやるウィーク」受け入れ開始
2004年	5月	ユニーズ(UNIES・学生グループ)活動開始
	5月	「神戸まつりパレード」に初めて参加
2005年	9月	コープこうべと共催で「地球のステージ」初開催
2006年	6月	「ユニ・ボラ塾」スタート
	10月	5周年記念 タンザニアツアー実施
2008年	3月	「なくそう児童ポルノ」キャンペーンスタート
2009年	11月	「地球のステージ」2000回記念公演開催
2010年	7月	「ルワンダフルコンサート」開催
	12月	竹本会長と歩く広島ピースウォーク実施
2011年	3月	東日本大震災
2011年	4月	兵庫県ユニセフ協会に名称変更
2012年	1月	「ユニセフひょうごサポーター(賛助会員)」制度スタート
		10周年記念「ユニセフのつどい」、オリジナルマグネット作成、ケニア・ルワンダツアー実施
		東北支援(福島の子ども保養プロジェクトinよしまキャンプ、チューリップ募金)スタート
2013年	3月	「国際理解講座」スタート
	7月	竹本会長と歩く広島ピースウォーク実施
2014年	5月	被災地(福島県・岩手県)を訪ねる旅実施
	8月	神戸開催10周年記念「地球のステージ」開催
2017年		15周年記念 國井修さん講演会、「ユニセフのつどい」、「ユニセフひろば」開催
2018年	7月~	川崎塾全8回開催(~2019年10月)
2020年		新型コロナウイルス感染症の世界的大流行
	3月	第18回「ユニセフのつどい」開催中止
	5月	オンラインセミナーを始める
	12月	初めてハンド・イン・ハンド街頭募金を中止
2021年	3月	第19回「ユニセフのつどい」を3日間に分散し、会場とオンラインで開催
2022年	3月	20周年を迎えます

今まで街頭で呼びかけた緊急募金

アフガニスタン緊急募金・イラク戦争緊急募金・イラン地震緊急募金・スマトラ沖地震緊急募金・パキスタン緊急募金・ジャワ島地震緊急募金・ミャンマーサイクロン緊急募金・フィリピン台風緊急募金・ハイチ地震緊急募金・東日本大震災緊急募金・ソマリア干ばつ緊急募金・アフリカ干ばつ緊急募金・シリア緊急募金・フィリピン台風緊急募金・エボラ出血熱緊急募金

特集
 兵庫県ユニセフ協会
 設立20周年記念企画

高木慶子さんと 一緒に振り返る20年

兵庫県ユニセフ協会は、世界の子どもたちが一人でも多く笑顔になるように、一人でも多くの方に世界の子どもたちのことを知っていただけるように、活動してきました。

2002年3月日本ユニセフ協会兵庫県支部として生まれ、設立20周年を迎えます。今年発行される3回のWishの中で、いろいろな記念企画をお伝えしていきます。1月号では高木慶子さんからのメッセージと20年間のあゆみを紹介します。





▲ 兵庫県支部設立発起人会 (2001年12月6日)

兵庫県ユニセフ協会の 20周年を迎えて

2001年の兵庫県ユニセフ協会の設立発起人の一人として関わり、評議員としてこの20年間に上見守っていただいている「兵庫・生と死を考える会」会長の高木慶子さんから、ユニセフの活動への想いや世界の子どもたちに寄せる気持ちのこもったメッセージをいただきました。



◀ 兵庫県ユニセフ協会の平和講演会で話される高木さん (2015年10月4日)



たかき よしこ
高木 慶子さん

上智大学グリーンケア研究所名誉所長。「生と死を考える会」全国協議会会長。「兵庫・生と死を考える会」会長。兵庫県ユニセフ協会評議員。援助修道会会員。

「兵庫県ユニセフ協会」20周年の記念にあたり、お祝いと感謝を申し上げております。

2001年秋、当時兵庫県支部を設立するための発起人会に初代会長に就任されました竹本成徳先生のお招きで、出席させていただきました。常日頃からユニセフの活動に関心を持っておりまして私に取りましては、光栄あるお招きであるとともに心底よりうれしく、感謝して参加させていただきますました。

発起人会に参加させていただき、私の心も燃えてまいりました。

た。そこに出席されていた方々の熱意あるお姿は、その世界の情勢を知り、また、その上にあつて貧しく苦しんでいる子どもたちへの支援に生き生きとした誠意あるお考えを持っておられます態度に、深く打たれ感動さえました。

その後、「日本ユニセフ協会兵庫県支部」として発足するにあたり、「コープこうべ様の全面的なご支援を賜る事と成り、神戸で発足いたしましたコープ様が、また、新たに全世界の子どもたちのために貢献しよう」と立ち上がってくださいます熱意に感謝と尊敬を申し上げます。

設立にあたって全面的に支援を申し出ていただきました「コープこうべ」の創設者である賀川豊彦先生のお考えと精神にも合致したものであり、兵庫県に取りましても誠に名誉あることと光栄に思っております。賀川豊彦先生も天国からお喜びのメッセージを賜っていることと信じております。

いつの時代にあつても次の時代を築いてくれる子どもたちに心を寄り添えることは、大人である私たちの務めであると思いますが、特に、現代社会にあつて、ますます格差が広がっているこの時期にあつて、ユニセフの活動は世界的に

緊急を要する事柄でもあります。格差時代である今日、貧しく苦しんでいる子どもたちへの支援と援助は、緊急課題であると思えます。それを率先しながら世界の隅々にまで呼びかけていただいている「ユニセフの活動」に深い敬意を表すとともに、ますますこの活動が多くの人々へのメッセージとして届きますようにと祈願いたしております。

幸いにも私たちの近くにありません「兵庫県ユニセフ協会」が、私たちが住む同じ地球の上に、どれ程の子どもたちが貧しく飢えと寒さに苦しんでいるかを知る機会を

発信していただき、それに賛同し共に活動する人々が一人でも増えますことを祈願いたします。

また、この20年の間、全世界の子どもたちのためにご尽力いただきました「兵庫県ユニセフ協会」に関わっておられます役員の方々、事務局を担当していただいておりますスタッフの方々、ボランティアの皆様にご心より厚く御礼と感謝を申し上げます。

これからも、全世界の子どもたちが一日でも早く、平和で安心して世界で生活が出来ます環境がつくられますことを祈願しております。

早川 千晶さん

ケニア在住 33 年。ナイロビのケベラスラムに 1999 年設立した困難な状況を抱える子どもと大人のためのマゴソスクールや、ミリティニ村の子どもの家ジュンバ・ラ・ワトなどを運営。トーク&ライブや執筆活動などを通してアフリカの魅力を伝えている。第 56 回社会貢献者表彰受賞。

まさや
大西 匡哉さん

アフリカ太鼓奏者。ケニアのドゥルマ族の村で 8 年間音楽修行をして 2013 年帰国。ドゥルマ族の伝統打楽器「ンゴマ・ンネ」に独自の楽器を加えたセットやアコースティックギターなどを使ってオリジナルあふれるアフリカンスタイルのライブを展開している。



▲ エネルギーあふれるライブを届ける早川さんと大西さん。
 ◀ (右) 音楽を聞きながらケベラスラムで作られた手芸品を見る親子。
 (中) 一緒に手をたたいたら楽しいね!
 (左) ステージからの呼びかけに応えて踊る人たち。

2021 国際理解講座③

太鼓&歌&トーク
 すべてのいのちは
 たからもの

早川さんと大西さんによるアフリカトークと太鼓・ギター・歌のライブツアー「ボレボレキャラバン」が尼崎にやってきました。秋の好天の下、大きな空と芝生の広がる会場にトラックステージが設けられ、広場にアフリカの風が吹きわたりました。

早川さんの暮らすケニアでもコロナによる影響は大きく、医療体制が整っていないため感染者が出るたびに街はロックダウンされ、2020年3月から約1年7か月、夜間の外出は禁止されていました。ケベラスラムの生活はますます厳しくなり、早川さんはマゴソスクールへ助けを求めてくる周辺の人々へも給食の提供をしています。しかしアフリカの人たちは過酷な状況に追い込まれても生きることを諦めず、いつも前向きです。早川さんはそういうアフリカの今とそこで輝く力強いいのちの光、そして子どもたちの明るい未来を願う気持ちをも音楽とトークで伝えました。

大西さんは歌に込められたアフリカの自然やすべてのいのちに対する思いを語り、太鼓の響きや歌声で聞いている人たちの心をアフリカの大地へいざなってくれました。ライブを見に来た人もたまたま公園に来ていた人も、アフリカの音とリズムに乗って体を動かしていました。マスクの下はみんな笑顔、コロナ禍で長い間縮こまっていた気分を解放しているようでした。

Event Data イベントデータ

日時 2021年11月6日(土)
 会場 兵庫県立尼崎の森中央緑地大芝生広場
 後援 (公財)兵庫県園芸・公園協会
 協力 富士運輸株式会社

EVENT
REPORT





EVENT REPORT

2

2021 国際理解講座④

いま、生きていく力 いのちがまん中

Event Data イベントデータ

日時 2021年11月7日(日)
会場 コープこうべ協同学苑(三木市)/オンライン
講師 大津司郎さん(ジャーナリスト)
甲斐信好さん(拓殖大学副学長)
早川千晶さん(マゴンスクール主宰)
参加者 106人

生きるって何だろう？

世界の縮図と言われ生きる力にあふれるアフリカ。アフリカに関わりの深い、ジャーナリストの大津さんと大学教授の甲斐さん、ケニアで子どもの支援をしている早川さんを講師に招き、一緒に考えました。

新たな奇跡



早川千晶さん

キベラスラムはいのちの光に満ちている場所です。水も食べ物もない厳しい暮らしの中で、人々は助け合い支え合って生きています。親を亡くし、どん底に突き落とされた子どもたちに生きる希望を与えたいとマゴンスクールを始めて23年。子どもたちと向き合って生きていく中でたくさんの奇跡を見せてもらいました。が、今また新たな奇跡が起きています。成長した子どもたち、マゴンスクールの若者たちが、病に苦しむ人を助けられる医者や看護師になりたい、このスラムで起きていることを世界に発信して、この国を世界を変えたいと夢を語り始めたのです。彼らを応援するために私は今年、若者が世界に向けて発信していくマゴンスクールセンターをつくりました。もっといい明日をつくって次の世代に残していきたいと思っています。



大津司郎さん

鉛筆画から見えるリアル
私はアフリカの、特に紛争問題を映像で伝えています。構えずに印象深いものを素早く撮ったスナップ写真の鉛筆画からアフリカの現実を知ってほしいと思います。難民、貧困、資源の争奪、紛争などアフリカには世界のあらゆる問題が凝縮されています。鉛筆画はリアルを主張します。それぞれにストーリーがあります。それぞれの姿がより浮かび上がってきます。難民キャンプの孤児たちは子どもながらもがらに過酷な経験を強いられ、きつい目線をしています。この子(左上の絵)の目は、誰がお父さんお母さんを殺して僕を一人にしたんだと強い目線で訴えています。鉛筆画を描きながらいつもみんなはどうしているかと心を寄せています。子どもたち若い世代が前を向ける世界になってほしいと思います。

日本の教育の現場から



甲斐信好さん

私は国際政治学の視点から大津さんのコーディネートでゼミの学生たちと20年近くアフリカスタディツアーに行っています。アフリカは世界で一番ぜい弱な場所ですが生きる力が詰まっています。1994年に内紛から大虐殺の起きたルワンダでは、少年兵社会復帰施設や虐殺記念館、難民キャンプなどを訪れ、学生たちはその悲惨さや臭いに強い衝撃を受けました。今ルワンダは経済発展がめざましく、IT立国を目指しています。が、水道の普及率は低くほとんどの家では子どもが水くみをし、ポリタンクを抱え時には5kmも歩いて井戸まで行きます。その姿を見て、生きるこの大変さを知る学生やアフリカで井戸を掘る仕事に就いた卒業生もいます。人生を変える出会いがあるのです。いろいろなことに関心をもちつつながってほしいものです。

次の()を埋めてみよう。

甲斐さんから出された問題の一部です。みなさんも一緒に考えてみてください。

- 人間がやめようとしてやめられないこと。それは()と()である。(ゲーテ)
- ()%の日本の高校生が「自分はダメだ」と思っている。(内閣府調査)
- 愛情の反対は憎しみではありません。愛情の反対は()です。(マザーテレサ)

※答えは下に。

キベラスラムの人々は、生きることを諦めず、顔を上げて明日を信じて生きています。大津さんの鉛筆画は取材から見えるアフリカの厳しい現状を訴えています。甲斐さんは、暗闇ほど灯は明るい、アフリカは生きる力をくれる場所と話されました。講師一人ひとりの話の後で行われた参加者の質問も交えた対談では、講演の中に出た、日本の高校生の自己肯定感の低さについて、「ダメな人間なんていない。大人が真剣に生きることが大切でそれが子どもたちに強い影響を与える」とか「日本人が幸せに思わないのは上ばかり見るから。視点を変えようと過酷な状況で一生懸命生きようとする人が見えるはず」などの意見が出て、生きることを考え直した講座でした。

※2021国際理解講座は、(公財)兵庫県国際交流協会民間国際交流事業から助成を受けて開催しました。

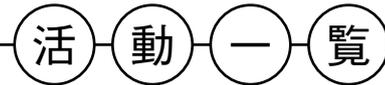


Activities File

活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴

2021年8月～12月



Activities List

学習会一覧

月日	訪問先	対象	人数
9月 3日	コープデイズ神戸北町コープ委員会	大人	4
9月10日	神戸市立福田中学校	3年生	146
9月24日	猪名川町立中谷中学校	2年生	65
10月22日	丹波市立三輪小学校PTA	4～6年生 保護者	40 20
11月19日	コープ龍野レインボースクール	大人	16
12月 1日	尼崎市立兵庫の里小学校	6年生	84
12月 3日	宝塚市教育委員会人権わくわく学級	小学1年生 ～中学1年生	20
12月 5日	ガールスカウト兵庫県第25団	小年生 大人	14 23
12月11日	宍粟コープ委員会	大人	7
12月13日	西宮北コープ委員会	大人	11
12月13日	稲美コープ委員会	大人	11

地域活動一覧

*ブース出展

月日	イベント名	
9月11日	平和学習会「平和をつくるをカタチに②」	
10月16・17日	兵庫県ふれあいの祭典	*
10月17日	豊かな海と未来を考える2021	
10月23日	ユニセフセミナー「カルタで学ぼうジェンダーギャップ」	
11月 6日	国際理解講座③「すべてのいのちは たからもの」	*
11月 7日	国際理解講座④「いま、生きていく力 いのちがまん中」	*
11月22日 ～12月7日	写真展「東日本大震災から10年 災害列島・日本 49人の写真家が伝える“地球異変”の記録」	

募金一覧 (兵庫県ユニセフ協会関係分 敬称略、順不同) 2021年7月～10月

学校・団体名
サポートプラス山内大和、兵庫県立阪神昆陽特別支援学校、(私)関西学院中等部

ご協力ありがとうございました。

ユニセフひょうごサポーター (2021年度分)

区分	口数	学校・団体名
団体	65口(4団体)	兵庫県生活協同組合連合会、株式会社コープムービング、株式会社コープエイシス、株式会社コープフーズ
個人	136口(66人)	
合計	201口/402,000円	

1

兵庫県ふれあいの祭典
ふれあいフェスティバル in 神戸
に参加

日時 2021年10月16日(土)・17日(日)
会場 メリケンパーク(神戸市中央区)

昨年は2年ぶりに会場で開催。パネル展示で、コロナ禍の世界の子どもたちやユニセフの活動などを紹介しました。

2

写真展 東日本大震災から10年
災害列島・日本
49人の写真家が伝える“地球異変”の記録

期間 2021年11月22日(月)～12月7日(金)
会場 コープこうべ生活文化センター1階ロビー・展示室
後援 3.11写真記録委員会

日本を代表する写真家が撮影した、東日本大震災とその後の自然災害の記録写真集の写真パネル175枚を展示し、この



国の危機を伝える写真を通して地球全体に及ぶ異変を考える機会としました。また被災地でのユニセフの活動「子どもにやさしい空間」についても紹介しました。

3

豊かな海と未来を考える2021
～大蔵海岸クリーン作戦～

日時 2021年10月17日(日)
場所 大蔵海岸(明石市)
参加者 23人
主催 コープこうべ第6地区本部
共催 兵庫県ユニセフ協会、兵庫県漁業協同組合連合会
協力 海と空の約束プロジェクト、ひょうご豊かな海発信プロジェクト



※この事業は「ひょうご子ども・若者応援団」の助成を受けて実施しました。
まず、「海と空の約束プロジェクト」代表の西谷寛さんのリードで磯の生き物を網や手で捕まえて観察。イソガニやヤドカリなどがたくさんおり、大人も童心に帰って楽しみました。
続いてのクリーン作戦では、大蔵海岸のようにゴミ拾いなど管理がなされていてもマイクロプラスチックといわれる風化したりして5ミリ以下に小さくなったプラスチック片はたくさん落ちており、みなで拾いました。これらは海の生き物がエサと間違えて食べてしまうなど問題になっています。西谷さんからは、陸から海へとゴミは流れてくるので、海と直接関係ない人もみんながゴミを捨てない・ゴミ拾いをすることが大切だというお話も聞きました。(上田佐知子)

4 平和学習会 ～平和をつくるをカタチに～

① ヤマトンチュとして 沖縄に向き合う

日時 2021年8月7日(土)
会場 神戸学生青年センター / オンライン
講演者 西尾慧吾さん(米国イェール大学在籍)
高尾具成さん(毎日新聞社専門記者)
参加者 41人



西尾さんは、修学旅行で初めて訪れた沖縄で遺骨や遺品の収集を続ける国吉勇さんと出会い、沖縄をリゾート地としか捉えていなかったことに大きな衝撃を受け、物言わぬ語り部と言われる遺品を全国各地で展示する活動を開始しました。

また、戦没者遺骨収集推進法に基づく現地の遺骨収集作業が未だ終わっていない沖縄県南部の土砂を辺野古基地建設のための埋め立てに使用するいわゆる遺骨土砂問題に注目。新聞社への投稿や市会議員への働きかけにより、使用反対の動きが広がっています。早くから西尾さんの活動取材してきた高尾さんは、遺骨土砂問題への読者の反響が新聞社にも届き、沖縄報道の枠が大きくなっていったことなどを話されました。

② 被爆者は私たちに何を訴えているのか ～「平和」とは何かを立ち止まって考える

日時 2021年9月11日(土)
会場 オンライン
講演者 林田光弘さん(長崎大学核兵器廃絶研究センター特任研究員)
参加者 42人



日本では、終戦記念日と広島、長崎へ原爆投下された日、つまり戦争が終わった日と被害の記憶がメモリアルデーとして、恒例のように8月の新聞の一面を飾ります。同じ敗戦国でもドイツでは、ナチス内閣が発足した日とアウシュビッツが連合軍によって解放された日、つまり戦争が始まった日と加害の記憶がメモリアルデーです。林田さんは、「被爆者の方々は、戦争を繰り返さないために何を学び、何をすればよいのかに対する関心が低いことを非常に危惧しています。被爆者がいなくなる時代が来つつある今だからこそ、なぜ戦争が始まりどのように終戦を迎えたか、夢や希望が奪われたという話を聞き、原爆投下前の平和な時の写真とともに後世に伝えることは必要です」と話されました。

5 2021 国際理解講座② 「世界を変える」という仕事ー 現場から学ぶ、教育支援の可能性

日時 2021年8月29日(土)
会場 オンライン
講師 延岡由規さん(認定NPO 法人 e-Education)
参加者 72人



サッカー少年だった延岡さんは、手縫いのサッカーボールの裏には子どもたちの強制労働があることを知りました。大学在学中に国際協力NPOで元子ども兵に対する社会復帰プロジェクトに関わり教育の重要性を知り、その後 e-Education に就職。バングラデシュの農村部の高校生たちにオンライン家庭教師サービスを提供し大学進学をサポート。そのサポートを受けた学生のひとり、ロヒンギャ難民危機の支援を始めました。今は途上国で生まれた課題解決法を日本の課題解決に活用できないか真剣に考えています。

6 ユニセフセミナー カルタで学ぼうジェンダーギャップ

日時 2021年10月23日(土)
会場 西宮市大学交流センター
講師 帝塚山大学法学部教授 末吉洋文さん&ゼミ生 2人
参加者 19人

帝塚山大学の末吉ゼミの学生さんはゼミでの学びを通じてさまざまな価値観に触れ、若い人たちにジェンダー問題へ関心を高めてほしいとの思いから、「ジェンダーギャップを考えるカルタ」を考案しました。

人間には生まれつきの生物学的な体の違いとは関係なく、「男は乱暴」「看護師は女の仕事」など、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があります。ジェンダーとは、このような男女別に決めつけられたイメージや役割を指しますが、社会には

LGBTQ など多様な性があることも考えていく必要があります。また、男女平等を実現する上で注目されている2021年の「ジェンダーギャップ指数」での日本の順位は156カ国中120位でした。この指数は、「経済」「政治」「教育」「健康」の4つの分野をスコアで表しランキングしていますが、日本は「経済」「政治」分野での女性の参画の割合が低く、ジェンダー平等に向けた努力が遅れていることを示していました。

カルタは「あ」から「を」までの45枚。「ランドセル 何色がいいかは子が決める」など、学生ならではの視点でジェンダーに関する時事性のある話題から普遍的な問題まで幅広く取り上げられていました。



ユニセフ募金 Donations For Unicef

■ 通常募金

通信欄記載事項	振替口座	手数料
K1-280 兵庫	00190-5-31000	免除

■ 緊急・復興募金

	通信欄記載事項	振替口座
ロヒンギャ難民	ロヒンギャ K1-280 兵庫	00190-5-31000
シリア	シリア K1-280 兵庫	00190-5-31000
アフリカ栄養危機	アフリカ K1-280 兵庫	00190-5-31000
自然災害	自然災害 K1-280 兵庫	00190-5-31000
人道危機	人道危機 K1-280 兵庫	00190-5-31000
新型コロナ ウイルス	コロナ K1-280 兵庫	00190-5-31000

*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
*手数料免除
(郵便局の窓口からの振込の場合、振込手数料が免除となる専用の振込用紙が必要です。専用の振込用紙をお送りしますので、事務所へご連絡ください。)



いつでも
どこでも
気軽に募金

<https://www.unicef.or.jp/sp/>

ユニセフ兵庫ニュース Wish vol.66

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2022年1月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081
神戸市東灘区田中町 5-3-18
コープこうべ生活文化センター 4F

電話：078-435-1605 (平日 10:00 ~ 16:00)

FAX：078-451-9830

E-Mail：h-unicef@kobe.coop.or.jp

●最新の情報はホームページで

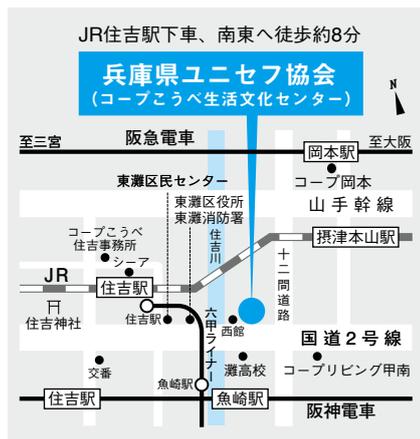
<https://office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫 ユニセフ

検索



●兵庫県ユニセフ協会への案内図



Join Us 主催イベント

各日程は変更になることがあります。
詳細はホームページをご覧ください。

参加費
無料

世界の子どもたちをつなごう

ユニセフのつどい

Unicef Festival Vol.20

2022.

3/6

SUN

3/12

SAT

参加無料



年に一度、
ユニセフに集う日。



ユニセフのつどい vol.20

3/6 (日)

時間 13:30 ~ 15:30

会場 オンライン

リレートークで活動紹介&ワイワイ交流

3/12 (土)

時間 12:30 ~ 15:30

会場 コープこうべ生活文化センター / オンライン

浜田進士さん講演会「子どもがまん中」、アフリカ太鼓パフォーマンス (大西匡哉さん)

20周年記念講演会予定

① **安田菜津紀さん講演会** オンライン開催
「写真で伝える命の重み」
多様性、人権を子どもたちの姿から考える

日時 2月20日 (日) 13:30-15:00

会場 オンライン



NPO法人 Dialogue for People 所属フォトジャーナリスト。同団体の副代表。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。

② **長倉洋海さん講演会** ひろみ

日時 4月16日 (土)

会場 コープこうべ生活文化センター



写真家。世界の紛争地や辺境の人々を撮影。「アフガニスタン山の学校支援の会」代表。受賞多数。

③ **国井修さん講演会**

日時 7月30日 (土)

会場 未定



医師。グローバルファンド(世界エイズ・結核・マラリア対策基金) 戦略・投資・効果局長。

新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、変更・中止させていただく場合があります。参加ご希望の方は必ず事前にご確認下さい。

参加申込みはホームページ上の申込みフォームでも受け付けています。

お問い合わせ
TEL 078-435-1605

事務局からのお知らせ

兵庫県ユニセフ協会「第23回理事会」、「第12回評議員会」を開催しました。

日時 2021年12月9日 (木)

会場 コープこうべ住吉事務所

コロナ禍2年目となった役員会では、まず今期中に交代された方々の選任をしていただき、その後2021年度の活動、決算見込み、2022年度の事業計画、予算案などを報告しました。ご出席のみならず、主に次年度の活動に向けたご意見、ご提案などを数多くいただいた貴重な時間となりました。

News お知らせ

川崎哲さん講演会
「核兵器禁止条約発効から1年を経て」

日時 1月26日 (水) 14:00-15:30

会場 兵庫県民会館 (神戸市中央区)



ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン) 会長、ピースボート共同代表。